

令和6年度第3回徳島市行財政改革推進市民会議 会議録（要約）

令和7年2月6日（木）午後3時から午後3時15分まで
徳島市役所 8階 庁議室

1 開会

（総務部副部長）

委員の皆さま、本日はご多忙中のところ、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。
ごぞいます。

ただいまから、令和6年度第3回徳島市行財政改革推進市民会議を開会いたします。

はじめに、本日委員3名から欠席の連絡をいただいておりますので、ご報告いたします。

それでは、会議に移ります。会長、よろしくお願いいたします。

2 議題

（会長）

それでは、次第に従いまして会議を進めてまいります。

委員の皆さまには、現在、徳島市が策定している「新たな行財政運営計画」につき
まして、これまでの市民会議においてご議論をいただきました。

その際に委員の皆さまから頂きましたご意見、ご提言を「徳島市行財政改革推進市民
会議意見書」としてとりまとめましたので、本日、市長へ報告したいと思ひます。

— 会長から市長へ意見書提出 —

(会長)

まず委員の皆さまには、これまでお忙しい中、貴重なご意見、ご提言をいただきまして、無事、今回意見書として取りまとめることができましたことを厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

徳島市におかれましては、継続した行財政改革によって、財政面では、以前の財政危機宣言をするまでの危機的状況から、現在では基金残高が 100 億近くにまで改善できたと聞いております。また、500 人を超える職員の削減を行い、組織のスリム化を図られたということも聞いております。市民の立場で言いますと、休日窓口の開設やコンビニでの証明書の発行など、市民サービスの向上が図られ、利便性が向上したことをとても喜んでおります。

一方で、これは徳島市だけの問題ではありませんが、社会的課題である高齢化及び人口減少等様々な環境の変化が生じております。そういった時期だからこそ、この行財政改革を推進していくということが重要であると考えております。

こうした中、今般、新たな行財政運営計画について市民会議を開き、意見交換を重ねてまいりました。今回の計画自体は非常に幅広く、広く浅くとなっていることは否めないところですが、財源は限られておりますので、「選択と集中」を意識していただき、効果があるところにしっかりと対策を行っていただくということも必要であると考えております。

また、新たな総合計画も策定されているということですので、そちらとの整合性を図るということも重要だと考えております。是非、徳島市におかれましては、継続した行財政改革を進めていただけるよう、切に要望いたします。

以上で私のあいさつと代えさせていただきます。よろしく願いいたします。

(市長)

ただ今、会長から、新たな行財政運営計画の策定に向けての市民会議でのご意見・ご提言をまとめた意見書をいただきました。

委員の皆さまにおかれましては、公私ともにお忙しい中、会議にご出席を賜り、数々の貴重なご意見をいただきまして、心からお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

徳島市では、平成 18 年以降、5 次にわたる計画により行財政改革に取り組み、一定の成果もあげてまいりました。しかしながら、予想をはるかに超える人口減少や少子高齢化の進行、市民生活にも多大な影響を与える物価高騰や地球温暖化による気候変動、自然災害の甚大化など、行政を取り巻く環境は一段と厳しさを増しております。ただ今会長から基金残高についてお話がありましたが、それでもかなり厳しい状況です。コロナの時とはまた財政状況が変わっておりまして、これからより気を引き締めなければ大変な状況になるということを実感しながら、来年度の予算の査定を進めているところであります。

こうした状況下においても、徳島市政を預かる市長として、市民の皆さまが誇れる、また安心して暮らせる徳島市をつくっていきたいと考えております。そのために、政策を下支えする健全な財政基盤の確立をはじめ、行政運営機能の強化や持続可能な市民サービスのあり方の検討に取り組んでまいります。

また、その手法につきましても、市民の皆さまの生活様式や価値観の変容などを的確にとらえることができれば、市民の皆さまがより満足できるサービスに変えていくことができると考えております。

現在、新たな行財政運営計画の策定作業も大詰めを迎えているところでございまして、本日ご提出いただきました意見書を基に、さらに調整を行い、計画をとりまとめまいります。

今後も、委員の皆さまのお知恵もお借りしながら、質の高い市民サービスを創り続けられるよう職員一丸となって全力で行財政改革に取り組んでまいりますので、引き続き、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

委員の皆さまには、限られた時間の中で、多大なご協力をいただきましたことに、重ねて感謝申し上げます、私からのお礼の言葉といたします。

(会長)

市長、ありがとうございました。

本日の議題は、以上で終了しました。

なお、この際ですので、委員の皆さまからも何かございましたら一言いただきたいと思っております。

(委員)

第1回、第2回と出席できず申し訳なかったのですが、一言だけお話をさせていただきます。

大学の授業や研究で「現状維持バイアス」という言葉を使用することがあります。私も組織の一員なので非常によく分かるのですが、変える、ということはなかなか難しいですね。特に、自治体のような組織は特定の人や特定の部署の権力を削ぐような形になっておりますので、変えるということに関してとてもパワーを使う、そういう組織になっているのではと思います。そういう意味では、改革というのは非常に難しい部分であり、今回我々が意見書という形で提案させていただきますけれども、実際に自分の組織を変えようと思うと難しいということを感じているところであります。

とはいえ、今市長がおっしゃったように、人口減は分かっていることでありますし、なかなかゆっくり構えてどうするかということを考える時間もなくなってきておりますので、是非市長のリーダーシップの下、変えていくということ、全組織一丸となってやっていただきたいと思っております。皆さま、どうぞよろしく願いいたします。

(委員)

私は今年度からはじめて参加させていただいております。最初は戸惑うこともありましたが、皆さんの熱意ある意見を聞いて、私も何か発言しなければと思っておりました。

私は大学で憲法を教えておりまして、中でも人権論をメインの研究テーマとしております。市民憲章の一番目に「まごころをもって助け合い、すべての人に親切にしましょう」とありますように、人を大切にすることを実際に実現していくと、こうした会議の中でもいろんな意見が出る。そういった基本的なことが重要であるという認識に至りました。

私は、二つの小学校を訪問した経験から、気が付いたことを意見として述べました。少子化ということもありますが、特に、教育に関することは非常に重要であると考えております。一番大事なのは子どもたちですね。子どもたちをどう育てていくかということを見ると、体力もそうですが様々な面での支援があります。それが先ほど申し上げたことにもつながりますが、子どもたちにまごころを伝えていくということもそのうちの一つです。そのためには周りにいる私たちが実践してみせないといけませんので、皆ができるようになることが私の願いであります。おそらくそれは皆さんも一緒であると思います。そういったことを確認できただけでも、私としてはこの会議に関わらせていただいて有難かったと、その一言に尽きます。どうもありがとうございました。

(委員)

今年度はじめてこの市民会議に参加させていただきましたが、市、行政が行っている大きな範囲の中の、ほんの一部にしか、私は意見できていません。行政の幅広い仕事の中で、日々仕事をされている職員の方、当然、この庁舎の中にいる全員が日々大変な思いをしながら仕事をされていると思います。

今回、市の財政の様々なところで改善をしていかなければならないということで、人員の削減の話もありましたが、一気に削減するのではなく、後継者を作るために採用もされたと聞いております。先ほど話がありましたが、必要な仕事の棲み分けや英断が必要かもしれませんが、そういったことも行いながら、職員が働きやすく、市民が幸せに暮らせる徳島市となるように、ほんの一部ですけれども私も力になれたのかなと思いつながらの今回の会議の参加となりました。本日はどうもありがとうございました。

(委員)

私自身、こういった会議に参加するのははじめてで、とても多くの金額があって、目標があってということにまず驚いていました。そして、そういったたくさんの方の計画や目標のために頑張ってくださっている職員の方がいるからこそ、市民は日々安心して暮らせているのだなど、何回かの会議を通して実感しました。その上で、今まで話し合ってきた意見が少しでもより良い方向につながっていけばいいなと思っております。ありがとうございました。

(委員)

まずこれまでに、5次にわたって行財政改革を推し進めていただいているおかげで私たち徳島市民は安心して生活を送ることができているということに対しまして、心より感謝申し上げます。

また、この度の新たな計画の策定が確実に実行されることが、ひいては更なる市民生活の向上や徳島市の発展につながっていくと思っておりますので、大変だと思いますが引き続きよろしく願いいたします。

(委員)

私どもの研究所で「徳島を好きになる本」という本を発刊しているのですが、その中で、徳島市について、明治の頃は全国で十番目の人口であり、四国では一番人口が多かったということを書いております。四国の中で今は減ってしまっていますが、ある意味、ポテンシャルはあるのではと思っております。ただ、人口減少が非常に厳しく、やはりそれに対応してうまく縮んでいくということも必要なのでしょうが、これからやっていく中で攻めるところも持って、やっていただけたらと思います。また、持続可能な地域づくりを引き続き頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(会長)

新たな行財政運営計画の策定に向けて、予定されておりました本市民会議での議論も一旦終了しました。

委員の皆さまにおかれましては、お忙しい中、ご協力いただき、ありがとうございました。

それでは、事務局にお返しします。

3 閉会

(総務部副部長)

今後の予定でございますが、本日提出いただきました「意見書」を踏まえ、計画素案を3月の市議会において報告する予定です。報告する素案につきましては、改めて送付いたします。

その後、徳島市市民参加基本条例の規定に基づくパブリックコメント手続を経て、パブリックコメントの結果と最終案を6月の市議会に報告する予定です。

また、6月下旬には、市民会議を開催し、徳島市行財政改革推進プラン2021の取組状況と併せて、委員の皆さまに新たな行財政運営計画について報告したいと考えております。

それでは、以上をもちまして第3回徳島市行財政改革推進市民会議を終了いたします。

委員の皆さま、本日はどうもありがとうございました。